

特集.2 《内子町》

小さな町の広報紙、 だからできること。



内子町役場総務課
広報・広聴係長

兵頭 裕次

●あなたの町の広報紙は、
どんな香りがしますか——

「ふるさとの香りがする広報紙を届けたい——」。

『広報うちこ』の歴代担当者が心掛け、積み重ねている思いです。単なるお知らせ広報ではなく、美しい風景や元気な笑顔、人々の頑張る姿や思いを伝えようと工夫した広報紙は、ふるさとの香りがします。ここにしかない、ここで見られない「今」を届けることで、町民の皆さんを元気にし、また郷土への誇りや愛情を育むことにつながると信じて、日々頑張っています。

●特集へのこだわり

特集はお知らせ記事を大きくしたものではありません。特集記事を作るときは、なぜその記事を取り上げるのか、誰に何を伝えたいのか、住民と行政が何を一緒に考え行動するべきなのかを常に考えています。行政から住民への一方的な情報提供ではなく、住民へのインタビュウを多く掲載することで、町へのメッセージを伝えることも大切です。

『広報うちこ』のこだわりは、毎月欠かさず特集を組むこと。写真や登場する人物を増やしたり、レイアウトを工夫したりして、読みやすさを重視しています。地域や人の魅力をストレートに伝えるために取材や撮影・編集など、印刷以外の作業は全て自分でしています。

もっと読んでもらえる広報紙にするため



広報うちこ用に撮影した写真（上）あじさいの頃の田丸橋（中）棚田100選「泉谷の棚田」での収穫（下）地域の祭りで撮った、町の人たちの笑顔

めに、町と住民に向き合いながら、特集づくりにはこだわり続けるつもりです。

●「一瞬」を「永遠」にする写真の力

町の魅力を発信するために重要なのは、やはり写真です。「1枚の写真は1000語に匹敵する」といわれるほど、写真にはさまざまなことを伝える力があります。また広報紙は町の「今」を伝えるものではありますが、後には町の「歴史」を伝えるものにもなります。そのため広報紙の写真選びには、いつも神経を使っています。

ため息が出るような美しい光景や、笑顔がはじける一瞬をたくさん残せたいのですが、私のカメラ歴は広報担当歴と同じで、実はまだ4年目です。はじめ一眼レフカメラを持った頃は、下手な



全国広報コンクールで特選を受賞した27年10月号の表紙

私の心に強く残った写真が一枚あります。それは平成27年10月号の表紙の写真で、棚田100選にも選ばれている「泉谷の棚田」を守る上岡夫妻の笑顔を撮ったものです。

●人の心を動かした一枚の写真

写真しか撮れなくて苦労しました。一番つまらなかったのは、小学生が夢を語るコーナーで使う、ポートレート写真——。何枚か撮りましたが上手く撮れず、諦めて妥協した写真を使ってしまった。自分は「次に頑張る」でいいかもしれないが、掲載される人に「次」はありません。掲載された写真が、ずっと残ってしまいます。それを学んでからは、小さな記事でも手を抜かず、今の自分の全力でぶつかることがモットーです。技術が足りなくて悔しい思いをするときはありますが、その悔しさを次の成長につなげるために、向上心だけは忘れないようにしています。

特集では美しい棚田の風景や営みを紹介すると同時に、上岡さんたちの笑顔の裏にある努力や苦勞を伝えています。1年でも耕作をやめると、棚田はすぐに荒れてしまうので、景観を守るためには米を作り続けなければなりません。しかし、泉谷地区の棚田を守るのは上岡さんをはじめ、わずか3軒。どの家庭も後継者がなく、70歳以上の高齢者が中心となって大変な棚田の農作業をしています。

特集の最後には、二人の後ろ姿の写真を掲載しています。特集を読んでもくれた人たちに、二人がどんな表情で棚田を見ているのか想像してほしかったからです。そして表紙の笑顔の素晴らしさの意味を、もう一度考えてほしいと思いました。棚田とともに生きる二人の姿が多くの人の心に残り、「棚田のために何かしたい」、そう思ってくれる人が1人でも増えることを願った写真です。

発行後、多くの反響とともに担当課の職員から「今まで夏頃まで売れ残っていた棚田米が、今年は11月中旬に完売した」との報告がありました。もちろん担当者の努力の成果ですが、上岡夫妻の笑顔に心を動かされた人がいたことを知り、本当にうれしかったことを覚えています。

●小さな町だからこそその広報紙

町であった人が「〇〇の取材して」と声を掛けてくれる。急な取材のお願いに



内子高校郷土芸能部の協力で実現した紙面（平成27年12月号）

も笑顔で応えてくれる。「『広報うちこ』のためなら」と演奏中の舞台上がって写真を撮らせてくれる——。歴代担当者が育てた広報紙は、町の人に愛されていると感じることがたくさんあります。

小さな町の広報紙なので、町外への発信力はそれほどありません。でも、いい写真、いい特集、いい広報には、町を良くする力があると思います。小さな町だからこそ、温かくてふるさとの香りがする、そして町の人たちの思いがあふれている——。そんな『広報うちこ』を作りたいです。